

平成12・13年度センター活動報告

杉山 由紀男 (副センター長)

創価大学創価教育研究センター(以下「センター」と略記)が発足した2000年(平成12年)11月16日は、1950年(昭和25年)11月16日、戸田城聖先生が創立者池田大作先生に日本大学の食堂で創価大学の設立構想を語られてから満50年の日にあたっている。また、2日後の11月18日は牧口常三郎先生の『創価教育学体系』第1巻が刊行されて満70年である。

センターの設立は、1994年(平成6年)10月14日、創立者と創価大学・創価女子短期大学の教職員代表との協議会の席上、21世紀を展望しての未来構想の1つとして「創価教育研究所」の設立が検討されたことに端を発する、この構想を受けて、まず1996年(平成8年)5月15日に「創価教育資料収集委員会」が発足し、将来のセンター設立に向けての第1段階の作業として、創価教育に関するあらゆる資料の収集・保管に本格的に着手することになった。続いてこの委員会の作業は、1998年(平成10年)11月18日に発足した『創価教育研究センター』設立検討委員会に発展的に引き継がれ、さらに2000年(平成12年)6月21日からは「創価教育研究センター準備委員会」がこれに当たることになり、同年11月のセンター設立に至ったのである。

センターの目的および2つの活動の柱については本紀要の「創刊にあたって」で述べられているとおりであるが、これに基づいてセンターは具体的に次のような事業を行なうことにしている。①資料の調査収集、整理、保存及び管理 ②資料の公開、展示及びレファレンスサービス ③資料の研究及びその成果の発表 ④研究成果の教育活動への還元 ⑤講演会、公開講座、シンポジウム、セミナー等の開催 ⑥その他必要な活動。

創価教育に関する研究は、牧口先生についてのそれを始めとして、すでに学内はもちろん学外、さらに海外の研究者もその成果を発表している。また、ブラジルを始めとする海外の小学校においてさえ、創価教育学の理念に基づく教育プログラムが実行に移され、さらには、昨年末、中国の湖南師範大学に「池田大作研究所」が、同じく北京大学には「池田大作研究会」が設立されている。

しかし、たとえば牧口先生の事跡についてもまだまだ不明な点は多く、創価教育学の理念や内容の詳細、さらに牧口先生の思想の全体像についても今後徹底した研究が行なわれなければならない。そして、牧口先生から戸田先生へ、さらに池田先生へと流れて大きく水かさを増していく創価教育の思想と行動の大河についての本格的な研究が行なわれな

ればならない。

センターはまずこうした研究課題に取り組むことになる。そして、今後ますます増えるであろう内外の研究者に創価教育に関する貴重な資料を提供し、文字どおり、研究の“センター”として機能していくことを目指したい。また、本学の大学史編纂のための中心的な役割を担うこともセンターの重要な活動である。さらに、単に研究の次元にとどまらず、研究成果の学内教育活動への積極的な還元、内外に向けた創価教育の理念に基づく諸提言、その他創価教育の理念と実践に関するさまざまな種類の情報発信の“センター”となることも目指している。

このような目的と抱負をもって、ともかくも出発したセンターのこれまでの主な活動を以下に記す。

<平成12年度>

1. 学術調査活動

- ①八女市田中家資料調査（牧口常三郎並びに戸田城聖の事跡関係）〔2001年3月27日～29日〕

2. 講演会

- ①篠原誠（本学顧問）「<草創の大学を語る1>創立者と学生—『創価教育学体系』発刊70周年記念講演会」〔2000年11月18日〕
- ② 斉藤正二（本学教授）「牧口常三郎研究の現在—『創価教育学体系』発刊70周年記念講演会」〔2000年11月18日〕

3. 研究会

- ①野村一夫（法政大学大原社会問題研究所兼任研究員）「資料のデータベース化について」〔2001年3月15日〕

<平成13年度>

1. 学術調査活動

- ①八女市田中家資料調査（牧口常三郎並びに戸田城聖の事跡関係）〔2001年4月20日～22日〕
- ②津江並びに小国調査（牧口常三郎の事跡関係）〔2001年7月10日～13日〕
- ③相模湖内郷村・道志村調査（牧口常三郎の事跡関係）〔2001年7月31日〕
- ④白金小学校卒業生聞き書き（牧口常三郎の事跡関係）

2. 主な新資料発見等

- ①東亜女学校『東亜の光』に、牧口常三郎が同校に1904年（明治37年）8月から1907年（明治40年）4月まで勤務しているとの記事を確認。
- ②労働運動史研究会編『社会主義Ⅲ』（明治文献資料刊行会、昭和38年）にて、渡米協会編『社会主義』（1904年3月）に「米国の人生地理」、同協会編『渡米雑誌』（1905年1月）に「米国の地勢と人生」と題する牧口常三郎の講演がそれぞれ掲載されていることを確認。両者ともにアメリカの発展の理由について論じた内容である。
- ③雑誌『先世』（先世社、1906年）に「ヴェスヴィオス山の噴火」と題する牧口常三郎の講話が掲載されていることを確認。
- ④牧口常三郎と戸田城聖が1923年（大正12年）、1925年（大正14年）、1927年（昭和2年）及び1928年（昭和3年）に軽井沢を訪問した足跡を確認。
- ⑤戸田城聖が1942年（昭和17年）から43年（昭和18年）にかけて、『創価教育学体系』を北海道道立図書館並びに札幌市中央図書館に寄贈していることを、それぞれの図書館の資料で確認。
- ⑥中国語訳『最新人生地理学』（1907年刊）を中国・蘇州大学図書館で発見。
- ⑦牧口常三郎が中国人留学生に対して行なった講義の内容をまとめた『江蘇師範講義「地理」第七編』（江蘇師範編、1906年：中国語）を発見。

3. 講演会

- ①高村忠成（本学教授・副学長補）「＜草創の大学を語る2＞学生こそ大学建設の主役」〔2001年4月24日〕
- ②高崎隆治（ジャーナリズム研究家）「戸田城聖の生きた時代－戦後ジャーナリズム研究の立場から」〔2001年5月9日〕
- ③熊谷一乗（本学教授）「牧口常三郎の世界と創価教育学－今、創価教育学は何を訴えるか」〔2001年6月6日〕
- ④岡田俊裕（高知大学教授）「日本地理学史上の『人生地理学』－『人生地理学』発刊98周年記念講演会」〔2001年10月15日〕
- ⑤田代康則（本学副理事長）「＜草創の大学を語る3＞草創の滝山寮と大学を語る－創価教育研究センター開設1周年記念講演会」〔2001年11月16日〕
- ⑥三津木俊幸（創価学会副会長）「周総理と池田先生－会見後の知られざる秘話」〔2001年12月5日〕

4. 研究会

- ①末松義則・大村浩二（牧口常三郎全集編集委員）「牧口常三郎評伝研究の現状と課題」

〔2001年9月14日〕

5. 紀要刊行

①『創価教育研究』創刊号〔2002年3月16日〕

6. 翻刻・データベース作成

①『冒険少年』並びに『少年日本』の目次集成並びに執筆者・画家・漫画家索引を作成。

あわせて1948年、1949年刊の両誌の複写製本を行なう。

②創価大学学生自治会発行『ディリー新報』入力（継続）

③『創価教育学体系』データベース化（継続）

7. 資料収集

①中央図書館から創価学会関係出版物、約4,000冊の移管を受ける。

②学内外から本学に関する資料及び牧口常三郎、戸田城聖の関係史料を受贈。

③創価大学50年史編纂に備え、諸大学の大学年史資料を積極的に収集。また関連図書資料を購入。

8. その他

①テレビ北海道制作「教育は子どもの幸福のために―牧口常三郎が目指したもの」に取材協力及び資料提供（平成13年10月28日放映）。その他、国内外の雑誌・新聞・TVへの情報提供

②平成13年度国文学研究資料館史料館主催「史料管理学長期研修会」に蕨沢担当課長が参加し、「記録史料論」と「記録史料管理論」「史料管理の実際」について研修を受けた。

以上がセンター設立からの主な活動であるが、関係資料の収集やそのための調査活動、講演会の開催などが中心である。明年度もこうした諸活動を積極的に、さらに幅広く行なっていくとともに、上に述べた研究活動等の事業に今後本格的に着手していきたい。